



とうきょうすくわくプログラム活動レポート

第4回「自然物の観察」(2歳児)

しおどめ保育園京急蒲田駅前では、東京都の「とうきょうすくわくプログラム」を通して、子どもたちが身近な環境にふれながら、感じ、考え、試してみる体験を大切に活動が続けています。

第4回目となる今回は、「自然物の観察」をテーマに、落ち葉や花びらなどの身近な自然物を、光・水・鏡といった環境の工夫を通して観察しました。いつも見ている自然物が、見方を変えることでまったく違って見える—そんな発見のある探究の時間となりました。



活動のための工夫と環境づくり

子どもたちが安心して挑戦できるよう、下記の素材や遊具を準備しました。

- 公園で拾った落ち葉・花びら
- 押し花、植物図鑑
- HIKARI to Table(テーブルライト)
- ミラーワールド、アクリルボックス
- 折り紙
- じょうろ、水

光を当てる、鏡に映す、水に浮かべるなど、同じ自然物でも見え方が変わる環境を用意することで、子どもたちの「もっと見てみたい」という気持ちを引き出しました。

「自然物の観察」から広がる世界

テーブルライトをつけると、「ピカピカ!」と声をあげ、子どもたちは興味をもって集まってきました。光の上に落ち葉を置くと、「線があるね」と葉脈に気づき、指でなぞったり、顔を近づけてじっと見つめたりする姿が見られました。形の違いにも目が向き、「ふわふわ」「ハートみたい」と、自分なりの言葉で感じたことを伝えていました。



子どもたちの姿から見た“学び”

鏡を使った活動では、「奥にいっぱいいっぱいある」と映り方の不思議さに気づき、友だちと顔を並べて映る様子を見て、笑い合う場面も見られました。

アクリルボックスに水を入れると、「雨みたい」「泡だ」と、水の動きに歓声が上がります。自然物を水に浮かべて指先で沈めたり、両手に違う自然物を持って「固い」「柔らかい」と違いを言葉にするなど、五感を使った観察が自然と生まれていました。



鏡に映る不思議な世界



水滴の動きに興味津々

先生たちのふり返り

- ・光を当てることで、葉に小さな穴が空いていることに気づくなど、子どもたち自身が細かな変化を発見していた。
- ・光と水を組み合わせることで、葉脈や色がはっきり見え、より触れたり、確かめたりする姿が多く見られた。
- ・鏡を使う際、どこを見ればよいか迷う様子もあったため、見る位置に印をつけるなどの事前の工夫が必要だと感じた。

遊びが“探究”に変わる瞬間

落ち葉や花びらといった身近な自然物も、光・水・鏡と出会うことで、新しい発見の対象へと変わっていきました。「よく見てみる」「比べてみる」「違いに気づく」そんな体験を重ねながら、子どもたちは自然と向き合い、感じたことを言葉にし、自分なりの気づきを深めていきます。